

与那国島の漂流民伝承

1477年の济州島民との出会いの衝撃波

2025 年

3/09 (日) 15:00-17:30 石垣市健康福祉センター

3/12 (水) 18:00-20:30 Didi 与那国交流館

3/16 (日) 15:00-17:30 船浦ときめきホール

はるかな昔から与那国島に伝えられた、漂流民の記憶を保つ

最後の伝承者の画と語りによる「ふがぬとう伝承」

講師：全京秀・安溪貴子・安溪遊地

セミナー会場は無償配布 著者：和歌嵐香 N 子 (与那国島出身)



十五世紀
朝鮮王朝実録
と細部まで符合

主催：総合地球環境学研究所 LINKAGE (リンケージ) プロジェクト

共催：アンパルの自然を守る会

与那国島の自然と共に生きる会

西表島エコツーリズム協会・西表財団



いまよみがえる民衆の記憶力 伝承を島民自身がビジュアル化

1477年2月、朝鮮濟州島の人びとが与那国島に漂着し、2年余りをかけて島々を護送されて帰国。三人の濟州島漂流民と半年間をともに過ごした与那国島の人びとは、そのできごとを詳細に伝承していた。《ふがぬとう》(他所の人)と呼ばれた彼らとの異文化交流と学びあいの日々についての奇跡の画文集。サンゴの育つ南の島の限られた自然資源を持続的に利用してきた知恵の数々。それがどのようにしてかたち作られたかを雄弁に語るこの伝承は、気候変動と戦争の時代を生きる地球人の未来への指針である。

安溪貴子と安溪遊地がN子氏と何時間も電話をしている姿が目には浮かぶ。N子氏が描いた古代の岩刻画のような絵も何度も見た。それは神話が生まれる過程であった。与那国島と濟州島両側の人々が互いの心と言語を交換した540余年前の物語が、和歌嵐香、安溪貴子、安溪遊地三人の心と言語の交換で作られた「ふがぬとう」神話である。

人間が生きてきた地球上で、一編の神話が誕生する過程が証明された唯一の事例研究である。今、濟州島と与那国島は東アジア海域の神話共同体となった。この神話の一編が完成する過程を見ることができた事実そのものが私にとっては無限の感動であり、栄光である。 全京秀 (전경수)

プロフィール

和歌嵐香 (わか・らんこ) N子さんの紹介

著者は、1954年3月与那国島祖納生まれ。幼いころから、昔ながらの生活の知恵と島ことばをお年寄りに叩き込まれ、八重山高校卒業後は、京都をはじめ日本の各地で修行して島にもどり、自然素材を生かした染織の工房「なんたむら」を設立。2012年、北海道に移住。身の回りのすべてのものにやどる「いのち」に向き合い、心をこめて祈りを捧げる日々の中から、さまざまなアートを生み出す。

セミナー講師紹介

全 京秀 (チョン・ギョンス)

ソウル大学校名誉教授。文化人類学専攻。哲学博士。母方は濟州島出身。2009年に八重山を訪れ、感謝と慰霊のチェサをおこなった。

安溪貴子 (あんけい・たかこ)

生物文化多様性研究所。生態学専攻。理学博士。夫とともに、八重山と熱帯アフリカで学び、現在は、山口市北部で家族農業。

安溪遊地 (あんけい・ゆうじ)

山口県立大学名誉教授。人類学専攻。京大理博。西表島では「バカセ」と呼ばれ、宮本常一との共著『調査されるという迷惑』等。編集に石垣金星『西表島の文化力』(南山舎)。

プログラム セミナー開始30分前に開場 各パート30~40分程度。質疑応答30分程度。

- 1 **朝鮮王朝実録の濟州島民漂流記** (安溪遊地)
李氏朝鮮歴代の公式記録の中の、1479年の濟州島漂流民の八重山漂流の詳しい語りの紹介。
- 2 **与那国島の「ふがぬとう伝承」との出会い** (安溪貴子)
たった一人の子どもにすべての伝承を託そうとしたお年寄りの思いとその伝承は世界記憶遺産に匹敵。
- 3 **15世紀後半の朝鮮と濟州島の暮らし** (全 京秀)
韓半島で唯一みかんが実る濟州島の歴史と文化。韓国・濟州島から見た八重山の暮らし。

連絡・問い合わせ先: 〒603-8047

京都府京都市北区上賀茂本山457番地4

総合地球環境学研究所 LINKAGE プロジェクト

担当者・安溪遊地 (メールで a@ankei.jp)



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人
人間文化研究機構 総合地球環境学研究所